

醫界に逼る時代の足音

醫療制度改革

— どうかすれば理想的か —

厚生省野間課長談

醫療制度に改革を加へこれを合理的にするために醫藥制度調査會が組織されたことは、あなたにも既に御承知のことと思ひます。調査委員が日夜最も力を入れて検討してゐるのは、價値、診察料、醫務報酬、處方箋などであり、地方では診察料手當の報酬は殆ど患者からとらず、總て藥代の中に含めてゐるものが多いやうです。

藥價が一圓とすると、このうち藥の代金は三十錢で残りの七十錢は手當費、診察料であるといふ具合です。が、この藥代と診察料との割合、考へ方はそれ／＼醫務によつてちがふので患者にはどういふことになつてゐるのか見當がつかぬわけでは、ドイツでは藥局の藥瓶に全部代金が明記してあるもので、これに二割、或は三割の手當料を加算すれば藥價が出てくるといふ規定になつてゐます。手當料とは紙代、瓶代、藥局の努力などであつて、患者に判らぬ不合理な點は一つもないわけでは、ドイツのやうに處方箋を無料で患者に交付するといふ案もこの藥價令さへきまれば簡単に解決がつきます。

處方箋に従ひ藥を街の藥局、或は醫師から、患者は自由に便利なところを選んで買へるし、また藥價は一定してゐるから醫師はどこで藥を買はれても痛痒を感じないこととなるからであります。現在の

何百圓、何千圓拂つてもよいから是非あの醫師に診察してもらひたいといふ患者も勿論ある筈ですが、許可制にせよといふ案もあり、注射、手術、相談など診察にも藥價にも入らぬ醫師の努力に對して醫務報酬規定を定める筈です。注射一本の料金は藥價と醫務報酬とを加へたものといふことになれば極めて合理的であります。醫務報酬の合理化は實際には非常にむづかしい點もありますが、國民全體のため何とかして改革すべきであるやうに思はれます。

處方箋を無料に

醫療制度に愈よメス

日進月歩の醫學日本に、こればかりは舊態依然たる醫療制度に改革のメスを加へて合理化を目指す厚生省では先きに農山漁村における醫療機關公營の肚を明かにしたことが、この不當に備へてゐる醫務の收入源を抑へようといふ醫務報酬規定の制定、處方箋發行方法の改善及び醫務監督の強化を十五日午後一時から厚生省で開かれた醫藥制度調査會第二特別委員會で林衛生局長から左の主要を發明した。

一、醫務報酬規定の制定—藥價と診察料、手術料等を含むことと分けて藥價と診察料を合理的に規制する、このため藥價については藥價部を制定し、藥價委員に諮つて適正藥價を定め、診

察料は當分の間最高標準を定めるにとり、時日の経過にまつて最低標準も決めるが最高と最低の幅は出来るだけ少くしたい。

一、處方箋發行方法の改善—處方箋は診察後必ず無料で交付すること及び患者はこの處方箋によつて診察料から藥を買はうと街の藥局から買はうと勝手したること等と改め醫藥分業へ進むための基石としたい。

一、醫務監督の強化—醫局巡視等の方法を考へてゐるが形式は整へても實效を擧げるのは至難である。この際むしろ醫者の人格の涵養と向上に資する方策を考へるがよいと思ふ。

これに對し委員側から賛否の意見が出たがこの日は結論に達せず同五時散會した。

電柱廣告を禁止 開業醫にも統制 時代

醫療費低下の一助に加へて醫師の品位を維持、患者を迷はせないやうに厚生省内醫藥制度調査會第二特別委員會で開業醫の廣告制限について研究してゐるが二十九日の同委員會で當局案が發表されたところ委員も大體賛成意見が多し一部分の再検討を経て近く實行に移されるものとみられる。

案の骨子は現行法によると醫師の廣告はその閱歷、療養、技能などは廣告文中に記載出来ないことになつてゐるが、更にこの範圍を擴大して廣告文中には醫師の名稱所在地、電話番号、病床等を明示するだけにとり、専門に修得したものの以外の専門科目、學位(博士士號等)細々とした設備内容などははじめて電柱廣告は一切禁止、その代り醫師名簿を作成して一般公衆電話口に掲示するなり、交番に呈示するなり、または連名で時をきつて新聞廣告をする程度にとり、めようといふのだが、このうち學位廣告禁止については意見が出て正式決定は次回持ち越しとなつた。

また同委員會で醫師の免許條件として最長三年を年限として公共の醫務業務に従事せよといふ開業前の義務従業制度と傳染病災害發生地等に徴用派遣する平時の従事命令制度とが審議された。

大陸の熱帯病

漸く我が醫學界を蹶せしむ

心を躍らす若き女性參會者も十名近くあり、折頃の盛會であつた。講演の内容は支那の漢方醫の現状、基督教の醫療救護施設の概況、我同仁會醫院の視察談等、中支北支蒙疆各地の情況を、三時間半にわた

たり、時にユーモアをまじへて可成面白い話であつた。尚終つて藥品書類其他の資料等を供覽し、出席諸氏の質問にも答へて九時半散會した。

大陸の風土病については、本會はいち早く特派員を送りてこれが第一回の調査をなし、本誌第三號に於てはマラリア特輯號を以て世人の注意を促し、前號又風土病の情況について詳細なる報告を掲げてその實情を紹介して居る次第であるが最近に至りこの問題の解決に文部省學術部が強く乗り出したことは特に注目すべきである。

即ち支那大陸のバチルス・マラリア、カラザール等の熱帯傳染病がこの夏蔓延しきやうな形勢で世界に誇る日本醫學もこの領域においてはなほ未成熟状態のためその蔓延は強く憂慮されてゐるが、戦時下の科學日本の飛躍めざして近く誕生する文部省學術部では統後保健に鐵壁の布陣を固めたる爲その初仕事として日本醫學界を總動員、傳奨金を交付して「大陸のバチルス」一掃に乗り出す事となつた。

マラリアは熱帯地方に猖獗するもので住民恐怖的の的でありシヤム(タイ)國では一虎の牙では一年に五十人、マラリアでは一年に五萬人(タイ)と猛獣の牙より怖れてゐる。支那ではマラリアは揚子江以南に常に猖獗を極めてゐる。カラザールはマラリアのごく慢性的のものともいふべき症状で永年の間に知らず／＼脾臓肝臓を冒されて遂に

は死に到るもので揚子江以北一帯は河北省、南は江蘇省から南滿にかけて盛夏の猛威をふるひ死亡率は七〇乃至九〇パーセントに及ぶ。

事態を契機として内地大陸間の頻繁な交通は必然的にこれら熱帯病を内地に移入、既に相當の罹病率をみて統後の懸念をそまつてゐる。このマラリアの特効藥たるキニーネ、ブラスモヒン、アテブリン、カラザール特効藥たるアンチモン製劑は全部輸入品で嚴重な爲替管理によつて品不足を告げ現在まだ代用品も發見されてゐない。

更に諸外國では熱帯地方に植民地を有するため熱帯病も可成進歩をみせてゐるが、臺灣、沖繩の亞熱帯地方のみ有して熱帯病を有たぬわが邦醫學界では從來熱帯傳染病學に深い關心を示さず諸外國に比して著しい立ち遅れの現状でこれら蔓延流行の場合危険性は極めて大きい。

學術部では從來等閑にされたこの領域を振興し、日本醫學前進を計り統後の不安を一掃せんと與亞醫學の命題として熱帯傳染病學を今月上旬には各研究所、各醫大の研究科目研究範圍等も決定、日本醫學界は未開の分野へ輝しい出發をすることゝなつた。

盛會なりし大陸視察報告會

小柳特派員の大連視察報告會は豫告の如く、五月二十日午後六時より拓大講堂に於て盛會裡になされた。參會者約五〇名大陸發展に

結核豫防會總裁に

畏し 秩父宮妃殿下

御下賜の五十萬圓基金に設立

結核豫防並びに治療事業御奨励のため皇陛下から下賜あらせられた五十萬圓を基本に厚生省で設立中の財団法人結核豫防會の總裁には秩父宮妃勢津子殿下を奉戴申し上げることになり、かつて廣瀬厚相から妃殿下に御願ひ申し上げたところ十九日御内諾あらせられたので廿日午前九時廣瀬厚相は宮家に伺候御禮を言上した。近く同豫防會設立と同時に正式に奉戴申し上げることになった同妃殿下がかゝる公私團體の總裁におなり遊ばされるのは今回が御

上海たより

上海 野邊清氏より

○上海吳淞路に在て、日華親善の爲めに盡力せられたつゝある清熱の國士野邊清氏より右の書翰を寄せられた。氏は先般臨京の節本協會設立の新聞記事を見るや直ちに電話を以て恰も協會發會式たる拓大に祝辭を述べられ、その後御多忙中を慮り拓大教務課及本協會事務所を訪問烈々たる愛國の熱情を吐露された。その後上海より度々書翰を寄せられ、又先月號にて報告せる如く漢醫書の寄贈をなされた。又本書翰中に猪野宅代議士云々の文字あるは、本誌所報の議院の連記を見られてのことには、野邊氏が本協會事務所を訪問された日の夜、恰も同志が猪野氏代

初めてである。これと同時に厚生省では會長以下役員の名簿を發表した。近く平沼首相は政界、官界、財界、事業界、學界等各方面の有力者を首相官邸に招いて同會の設立の経過を報告し命務の進展につき官民一般の協力を求める筈である。

役員顔ぶれ 會長廣瀬厚生大臣 副會長池田成彬、同樞密顧問官醫學博士荒木貞三郎、理事長岡田厚生次官、付屬研究所長前東大總長醫學博士長與又郎、顧問(內定)宮内大臣及び關係各省大臣

國民健康の向上確保に

漢方醫法を採用せよ

一、泥繩式の今日の慌て方

今度の大事變が長期となるに及んで、政府民間の人々が國民體位の問題をとりあげて砌りに苦慮して居るが、抑もこれは泥繩ものではないか。

一體我國民の體位低下が著しく目につきはじめてのは昭和初頭よりであつて、當時の統計を見れば殊に農村青年の體位の低下が壯丁検査の時に顯著に表はれたのであることは、軍當局の一部及民間の一部の人々が憂慮したのみでその根元についての對策が何等なされずして今日に及んだのである

二、體位低下の眞因の第一

今頃になつて、體位低下を問題にして居る。我日本の役人諸公のノンビリと間伸びした顔付もさること乍ら、農村や山村にある人々の體位が低下する。調べて見ると無醫村が全國で何千何百ある。はじめはそのことに気がついたり、それではならぬ。オイ醫者共前達は何故農山村へ行つて開業せぬか? まことに怪しからん話したと憤慨して見て、よし行かんといふなら行かして見せるとも言ひたげた案を立てようとして居るのが現状の様に見える。醫師の統制も結構である。法令を以て醫師を律し、全國民をして無事ならしめるのは大變よいことである。併し乍ら、單に統制とか國保とかが問題になつた丈で、全國醫科大學

の門前雀籠を張るの情況は何を物語つて居るであらうか。事變中の現在は約五萬の醫師中の三割を占める東京や大阪に於てさへ醫師は過剰を告げて居ないものである。現に今年は臨時醫事大抵不足を告げられ、時代は醫師の大抵不足を告げて居る。當然需要あるべき處へは當然供給されてこそ、社會は始めて健全であると言へる。然るに官立の堂々たる醫科、學にして定員の半分にも満たぬ志望者が集まらないこの實情は、醫師の統制を計畫する人々に、その計畫の根本に何か不足するものがあることを痛烈に、暗示して居るものではあるまいか。

して、環境衛生の改善、防疫事業の發達に大いにつくして居る。併し乍ら、國民體位を向上し社會生活を健全にする點への醫學的指導を充分につくして居るといへないのである。それは、醫學そのものが餘り歐米思想にかぶれ、歐米物質思想の申し子としての役割のみを果して肝心の處で、人間の國民としての生活を忘れ去つたのである。診察を乞ふものも、醫者の對稱であるといふ風に考へて来た傾向がある。更に治療醫學の方面に於てもその通りであつて治らうと治るまいと投薬しておけばよいといふ傾があつたのである。

四、漢方醫法を應用して治療醫學の貧困を救へ

日本古來の醫藥方法——鍼灸、藥草、漢藥等が治療上に大なる効果があつて、これ等の方法を採用する時は、格別大きな學問も素養もない人が實行しても、立派なドクトルよりほかに優秀な成績を残して來て居るのである。療術行爲者、無免許な治療家が年々其數を増加するのは、もつとも皮肉な社會的の表はれでなければならぬ。然るに從來醫師及醫師會の取り來つた態度なるものは、醫師法を楯にとつて、醫師法が宛も醫師を保護する爲に設けられでもしたかの如く悪用して、國民の體位向上に貢獻する療術家を壓迫迫害したつたのである。醫師法なるものは醫師を保護するのが第一目的で制定されたものではなく、國民の體位、生命を保護せんが爲の目的の下に規定されたもので、療術家、もぐり醫者にはるかに及ばない未熟な醫者が、その匙加減で營業をなすことを合法化する必要はないことをこの際はずきり認識すべきであらう。

醫師に要求すべき點は——二に留まらないが就中強く叫ばなければならぬのは和漢醫方の再認識再採用といふことである。

第一に健康法、養生法といふ點について、古來の體験を尊重し生かして行く方法がとらるべき事。

第二に結核については、療養ベットの敷が特に問題にされて居る様であるが、もとより多に起したことはない。併し乍ら、豪華なるホテルの如き療養所、しかも服するに藥なく、訓練するに理論なき現在のプレートルドットワイレルの療則にのつたそれをやめて、設備を簡單にして、服薬は朝夕漢方藥を服し、鍼灸を適度に施し、日本の食養道に則つたる治病の方法を生かす様な療養所の設置を國家が勸奨すべきである。

第三に、母體及乳幼児の保健についてである。母——一般家庭の育児知識の高揚をはかることはもとより重大問題であるが、例へば乳幼児の死亡について言へば、消化器の障害によるものは乳脚氣によること多く、又全國民の二〇乃至三〇%の者が花柳病にかつてあるといふ統計は、先天、遺傳梅毒による。體質虛弱も大いに考へなければならぬ。この點については我等の先覺なる故ドクトル渡邊先生が一生この問題について苦闘されたのであるが未だに世間はこれをとりあげて居ない。渡邊先生の後をついで大いに漢方流の研究をなしてその對策を講ずべきである。

第四に花柳病についても、漢方に勝れたる療法及藥物の存することは人のよく知る所であり殊に淋病の治法に於て然りである。

三、體位低下の眞因の第二

併し乍ら、醫師の立場も反省しなければならぬものを多分に持つて居る。

蟲樣突起炎の病理學

龍野 一雄

蟲樣突起炎は化膿性炎症機轉を本態とする疾患だから細菌感染が第一に問題となるべき條件でなければならぬ。

細菌

菌の種類は各種大腸菌が最も多く、球菌とウェルシ菌が之に次ぎアルカリ性糞便菌その他の好気性菌、線菌等はつと少なく、極く稀に他の嫌気性菌サルモネラ屬やエーテル菌のものが見られる。細菌が發見される場所は蟲樣突起内腔のみならず、時には壁中にも腹膜外面に於てすら證明されてゐる。このことは所謂透壁性或は滲透性腹膜炎の起因を物語るのである。

感

細菌の感染経路について血行性と腸内性との説があり、前者は就中アングリーナとの關係が重要視された時代もあつたが、今日ではさういふ場合は極く稀で通常は腸内感染によるものと考へられてゐる。染の機序についても種々な論説が行はれてゐるが代表的なのはアッシュョフ教授の一

行きその感染の状況により次の如き病理解剖的分類が立てられた

一、單純性蟲樣突起炎

a、初期腸管炎性蟲樣突起炎 (初期感染)

b、潰瘍性腸管炎性蟲樣突起炎

二、破壊性蟲樣突起炎

a、重症潰瘍性蟲樣突起炎 (潰瘍、壊死) 及び重症腸管炎

b、壊疽性蟲樣突起炎及び穿孔性蟲樣突起炎

三、治療期蟲樣突起炎

四、蟲樣突起炎性癒癢期乃至間歇期

この考へはかなり支配的であつたが、早期手術の例が多くなり細菌感染の機序に關する一層詳細な病理解剖學的検査が行はれた結果種々の新學説が提出されるやうになつた。その要點は急性蟲樣突起炎に於て細菌を抽出し得ぬ場合があること、アッシュョフの考へでは電撃的に進行する、細菌性變化の説明が困難なこと、腸内の感染を可能ならしめる機序の説明が不十分なこと等が關心を惹き、原發性慢性蟲樣突起炎の觀察、早期壊死性變化を説明すべき條件等益々詳細を加へて遂に土方博士の二元論に到達した。

原發性慢性蟲樣突起炎とは患者の自覺如何に拘らず極めて徐々、或は肉芽組織の増殖等を基調として居てその内の或ものが急性症狀を起すことありといふ考へである。カタル性蟲樣突起炎に基準せる

考へは蟲樣突起炎に於ける潰瘍をアッシュョフ教授の云ふ如き潰瘍性蜂窩織炎とはせずカタル性潰瘍となし早期手術によつて摘出せる蟲樣突起は肉眼に於て明かに識別し得られる程の大なるカタル性變化を呈してゐることが多いからである。

壊

慢性變化に就ては毛細血管の循環障礙が最も重要視せられ、何故に循環障礙を起すかに就て種々の説を生ぜしめてゐる。即ちブリュンは蟲樣突起の血管はセグメント節區をなすもので炎症が劇然と境せられるのは血管運動神經刺激によつて末梢に循環障礙を起し、それは又細菌の感染を容易ならしめるものだとし、リツカーは是を敷衍して血管神經説を立て、血管神經の刺激により血管の擴張を來し、血流の鬱滞に伴ふ血球滲出と血管領域下組織の栄養障礙は壊死を招き腸内細菌の二次的感染を誘發するといふ。ハイレは蛋白質の消化が不完全な場合に植物神經を刺激してトリアンギン、ヂェスターゼ等の分泌を多量ならしめ、不分解性蛋白質と酵素の作用により粘膜上皮は壊死を起してこゝに炎症機轉を作るとし、フイツシャー及びカイザリ

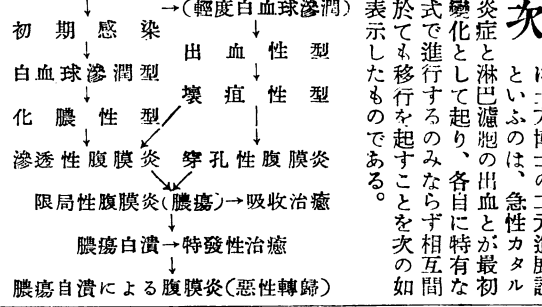
血

血管神經の麻痺は外傷性に起るといふマルタスの説もある。又血管神經を第一義的に取扱はず、直ちに毛細管の循環障礙を血管外よりの壓力即ち蟲樣突起内腔の壓の増加に歸し且實驗により毛細管は二〇砵水壓により循環を

停止すべきことを認めた。内腔を變化せしむべき動機としては糞塊又は糞石の嵌入、屈曲等類その可能性の多きを認めざるを得ない。是は蟲樣突起の解剖學的特性即ち内腔が盲管状に終つてゐる内容物が蓄積し易く且つその排除が困難なこと、蟲樣突起が蠕動運動を營まずして、たゞ振り運動をなすのみなる故内容物の排除に都合悪き蒙り易きこと、屈曲による狭窄等を考へるときは大いに考慮すべき提議と云はねばならぬ。又動物實驗に於て蟲樣突起根部を結紮し置

次

に土方博士の二元進展説といふのは、急性カタル性炎症と淋巴濾胞の出血とが最初の變化として起り、各自に特有な形式で進行するのみならず相互間に於ても移行を起すことを次の如く表示したものである。



世間では葡萄の種子を吞込むと盲腸炎になるなどといふが、慶大外科で調査した所では昭和三年より十一年に至る三九五三名の蟲樣突起炎患者中僅に一例を發見せし

病

候として原因は寒温の氣候に順應しないこと、喜怒哀無き精神不安の結果邪氣が榮衛に働きかけることを前提とし、その冒された榮衛が腸内に在つて熱を蒙り、血氣が凝結聚して遂に膿と成り熱積散せず血肉腐壞して膿となるといふ病理を立て、之を要するに身體的變化は榮衛と血氣と血肉に在り病理解剖的變化はたゞ腐壞と化膿しか考へられは居ない。腹部臓器に於ける化膿性變化を認識したのは膿部よりの自然穿孔による排膿又は便中に於ける膿汁の混入を観察したに基くもので、現代さう云ふ自然穿孔の例を見るのが甚だ稀であるのに鑑ても古人の觀察眼の優れてゐる事を俾とせねばならぬ。

外

科正宗卷之三腸癰論第三十三には腸癰を以て温熱瘀血の小腸に流入するによつて起

るものとなし男子疾走後、婦人産後、饑飽等傷後の三つの場合に腸結滯による氣血の凝滯を以て腸癰の發生を説明してゐる。程林の命置要略直解は蓋政附子敗腎散の證の場合には病變が小腸に在り、大黃牡丹湯の證の場合には大腸に在るとの見解を抱いてゐる。いづれにしても病理解剖學的基礎の上に立つたものではなかつたに臨牀の所見から歸納して行つたものだから想像に止まり知見の發展性が制限されてゐるのは已むを得ないけれど、臨牀上に於ける範圍としてはそれで事が足りてゐた

醫

五月二十日(土)午後五時半より醫療制度研究會主催の懇談會が赤坂幸樂に於て開催され、厚生省より野間正秋醫務課長、及院能亮一主任の出席を得、現在に於ける醫界各方面代表者の意見陳情ありこれに對する野間課長の明快なる答辭があつて野間課長に閉會した。本協會よりは漢方研究家を代表して理事矢野道明氏、鍼灸家を代表して柳谷素靈氏出席しそれら、醫療制度革新の具證案につき意見開陳した。

東邦醫學社

夏期講習會大塚敬節氏が「予の日常醫用する處方と其の解説」の題下に講演せられる。その他四講師。

來る七月二十五日より二十九日迄五日間に亘り、京都府立醫科大學講堂に於て東邦醫學社主催の夏期講習會が開かれる。本協會理事大塚敬節氏が「予の日常醫用する處方と其の解説」の題下に講演せられる。その他四講師。

野草の新研究

—草の利用について—

◇草は動物に絶対必要◇

動物にとつて草は絶対に必要なものである。草、即ち植物の葉緑素は空中から炭酸ガス、地中から水、窒素、灰分等を攝取し、太陽の光を受けて同化作用を営み、澱粉、脂肪、蛋白質等の養分力のある物質即ち養分を作つて体内に貯蔵する。これが動物に攝取されると、養分力から再び動物力に變り、體温或ひは力源となるもので、換言すれば、草は人をはじめ、すべての動物の生存に缺くことの出來ない太陽のエネルギーを、いろいろな養分分に變型、貯蔵する機關である植物以外にこの力はないのであるから「すべての動物は草から生れる」ともいふことが出来る。

◇實驗は斯く教へる◇

若草には蛋白質の含量が二〇パーセント以上に達し、優に穀物の二倍以上の蛋白質を持つ時期がある。イギリスでは農業が衰へた結果、穀物の輸入が増加したので、これを防止するため、蛋白質とビタミンAが多く、しかも消化吸収の良い野草や牧草を火力で乾燥して一貫匁五十匁乃至五十五匁で賣つてゐるが、日本でもこんな良質の干草を得ることは決して困難ではない。

◇干草は穀粉代用となる◇

現在我が國の農村は多くの勇士を戦地へ送つてゐるにも拘はらず農産物は増産しなくてはならない。この農村で優良干草を生産し、一方非常に草に恵まれながら肥料以外には殆んど棄て、顧みなかつた「草」に、新たな利用價值を求めるところこそ、最も國策に順應した草の利用法であると信ずる。

即ち緑肥の三分の一を干草にしただけで九千四百匁の穀粉代用品が得られる。これは、かりに米を比較の對象にとると、米の内地生産額の四パーセントに當る。

緑肥とする草は多くは半野生の軟草であつて、穀粉に優る養分價值のある時期があることは前述の通りである。近年ドイツでは野草の普及が目立つて行はれその廣告には「太陽のエネルギーを多量に吸収せよ」と書いてある。日本人も何等かの形で野生に近い植物を食へる必要があるのではなからうか。都人士の胃腸病などは草を食へれば癒るものである。優秀な

畜産家は耕作草にも必ず野草を混ぜるものである。本提案のやうな良品の干草を收穫して置けば萬一米作不良の場合には食品に混ぜることも出来るのである。米作が良好であれば家畜の飼料とする。

◇一石二鳥の草の利用◇

農家はこの干草の製造によつて現金に困る田筋前に二千八百匁の現金を握ることが出来る。又二番刈、三番刈、四番刈と九月末までは適時收穫を見られる。ある農村で一人の農夫が風流味を出さうと妻と相談し、先づ主人が見渡せば背戸の菜の花々盛りとやつて妻に下の句を求めたところ、妻は

丁度その頃飯米はなしとつた。主人が立腹すると、妻は「これが苦(句)にならなくてどんな名句がありませう」と云つたといふ話があるが、おおよそどんな利用更生の方法も、その資源が農村にないもの、または回収期限の長期なもので農家の現金が要るときに間に合はないものはその價値に乏しい。

草は野に山に、田に、繁茂し、生草のままで家畜を支へ、肥料として秋の收穫を約束してゐるばかりでなく、干草の製造は短時日の勞作によつて七ヶ月に亙つて農家の現金収入となり、更に冬の家畜を護るのである。

一面我が國の食糧問題解決の一助ともなり、他面農村問題解決の鍵を與へる一石二鳥の案とすれば我々は神から恵まれた「草」の利用に努めねばならない。

◇草の養分價值◇

草の養分價值は、一般の専門書にあるやうな今日の養分學上から見た養分價值のほかに、耕作物と自然草の性能上の差異の方面から見なければならぬ。

現在ではまだ科學的な證明がつかず、神祕として残されてゐる點もあるが、野草には一種の力があり、個性がある。元來植物は、土地の影響を非常に多く受けるので人の保護によつて育つて來た耕作植物は人間に好まれる味成分に偏つてゐる。自然草から見れば病的である野草は、適者生存の理法によつて自力で繁茂するのだから、骨もあれば味もあるといふことになる。美味求真の食通には都會の大根より田舎の大根が賞味され、野生の獨活の香氣とあくが都會人に

は強過ぎるといふのも、また薬用植物は天然のものが栽培品よりよく効くといふのもこの間の筋合ひを示す一例である。要するに草の養分價值に關しては、なほ研究すべき點が多いのである。

乾物百分中

粗蛋白質 粗脂肪 粗纖維 可溶無灰分 加里石灰 苦土 磷酸

灰分中

最良カモガヤ	四〇・七五	八・八	〇・七	〇・七	〇・七
ナガハクサ	三七・七	九・八	〇・七	〇・七	〇・七
英國最良干草	二九・四	〇・七	〇・七	〇・七	〇・七
日本野干草	二〇・二	二・五	五・九	〇・六	〇・六
燕麥	一三・二	四・七	三・三	三・〇	〇・三

東亞醫學協會幹部

漢方各大家の合議研究製劑

である故原料の精選と處方の的確は絶対他の追従を許さない

本劑は一時押への局處的藥劑ではなく胃腸の活力を健康と同じ様に恢復させる特點があるあらゆる胃腸藥にも満足しない場合にこの皇醫胃腸藥は最後の良藥としておすゝめする。

45錠	50
105錠	1.00
375錠	3.00

株式會社

東亞醫學協會研究製劑

喘息の一例

木村長久

最近喘息でよい経験をした。患者は四十歳の婦人、三年來の喘息兼氣管枝炎で苦しんでゐる。痰が胸に充満してゐる感があつて息苦しく、咳嗽があつて水様の痰を常に喀出し、一日中には痰盂一杯の痰を吐く。そして喘息の呼吸困難が重なり、室内を僅かに歩行しても息切れがして苦しくなり、殆んど終日夢中で暮してゐる。一日一回特殊な注射を受けると爾後數時間は痰の喀出が非常に容易となり呼吸困難も軽減する。それでこの注射を約一年間毎日續けてゐた。

診察をするに體格中等、榮養も悪くない。顔色は好くない。對座すると呼吸促進と喘鳴を聴取し、談話も息をつぎ／＼爲してゐる。脈は浮いて軟く、八十至前後、舌には著變はない。聽診すると喘息特有のラッセルが兩肺所にある。心音にも著變はない。腹は堅く、便秘勝ちで大柴胡湯の腹證を思はせる。食慾は呼吸困難の爲に不振。此患者は對座すると同時に小青龍湯の證であると考へた。腹診上大柴胡湯も一案として考へられた。

先づ小青龍湯に杏仁を加へて與へた。それで大抵良くなると思つた。ところがその後患家からの報告に、あの藥を一回飲むと胸が刺戟される様で前よりも咳嗽が頻發し、呼吸が一層苦しくなつて堪えられぬ。一回では分らぬと思ひ又一回試みたが、同様に病狀が劇しくなりもう續ける勇氣はないとあつた。自信を以て放つた第一矢は見事外れて反つて御叱言である。今まで小青龍湯を用ひてこゝろに、一而倪純宇の本草彙言、其他

を用ひてよいやら見當がつかぬ。大柴胡も考へたがこれは経験がないし、それでは小青龍湯と藥性を異にした咳嗽藥を與へてみようといふ瓜呂枳湯の處方した。之でよくなる自信はない。ところが患家から今度の藥は大變よい。續いて用ひ度いと云つて來た。其後往診してみると、前日の苦しい状態は一掃されて、起坐、談話が非常に樂さうである。喘鳴も殆んど聞えない。聽診上もラッセルが殆んど影を潜め、かすかに少數を聴く程度である。自覺的には胸に充満してゐる痰が非常に少なくなつた。胸が空いて來て呼吸が樂になつた。喀出す痰は水様から粘稠となり、且つ喀出が容易になつたと云ふ。こ

れが瓜呂枳湯を十日間服藥しての結果である。この患者はまだ治療中であるので、結末はつかぬが自分にはいゝ経験になつた。小青龍湯奏效疑なしと考へたものが反つて病狀を悪くした。小青龍湯證に似て非なるものである。然しそれがどの點で鑑別されるべきか未だ領解し得ない。兎も角も似て非なる場合があることを知り得た。次は瓜呂枳湯の應用である。瓜呂枳湯がこんな劇しい喘息症候、水様痰多量の場合に奏效すると思はなかつた。この場合瓜呂枳湯を與へたのは根據があつたのではない。即ち偶中である。偶中であるが故に奏效した根據が領解できない。之を領解するのは數年の後であるかも知れぬ。然しその糸口を此症例にて發見したのである。自分の形作りつゝある治療方式もこの偶中が重つて出來上つてゐる。矢張り第一に經驗である。そして證書であり、思索である。

檉柳と紫根(ハシカの藥)

石原保秀

抱瘡は容貞定め麻疹は命定め、だと云ふ。其麻疹が近頃流行中の様だが、古來の通治藥として、升麻葛根湯などが擧げられて居るやうである。證に應じて他の方劑を用ひることは無論だが、玉青堂の幼科證治準繩に檉柳散が載せられ、仲淳の廣筆記に清揚散、檉葛根湯、獨聖散、竹葉石膏湯(加檉柳)、痘後見疹主方、麻虎湯三黃石膏加檉柳湯が列挙され、其他秘方集驗や、丹方彙編傷寒大全等にも亦若干方が收めらるゝと共に、一而倪純宇の本草彙言、其他

に效用が力説されてから、追隨者の多くなつたことは事實である。即ち抱瘡大法、本草檉柳、本草彙言等には、何れも此檉柳を以て麻疹を治するの聖藥なりと言つてゐるのであるが、爲に我多紀監深などにも、葛根消毒湯(葛根、升麻、芍藥、防風、荊芥、牛蒡子、桔梗、薄荷、甘草、照常水煎、加二河柳、尤佳)の如き新定方があるやうである。二河柳は即ち檉柳である。

所が藍溪の子の桂山は、其麻疹心得の中に論西河柳の一文を掲げて

「享和三年春季より、麻疹行はるを以て、仲淳が法に遵つて之を用ふるに、甚だ效驗の著しきを見ず」
「然れども初より藥を投ずる者數百人、悉く全愈を得たり」
「一或は單味にて、喘咳氣急等を治したりと云ふ人もあれども、豫は試せず。されども何れ檉柳效無の藥に非ず。因つて意を盡し、暑を解する主藥は香薷なり、黃を治す主藥は茵陳なり。然れども暑熱甚だしきに至つては、更に石膏黃連を藉らざれば、效を奏すること能はず。黃連のや、劇なるに至りては、加ふるに梔子大黃を以てせざれば、痲熱を去ることを得ず。麻疹の檉柳の必用の品にして、暑の香薷の茵陳と同じかるべし。然れども其實は葛根、牛蒡子、石膏は功効著しきは無きこと、暑の石膏、黃連、黃の梔子、大黃の如し」
と撰説して居ることに依つても之を知る事が出来る。

本間靈樞の内科秘録に據れば、京都の高階家なども、之を專用したものださうだが、有持桂里、本間靈樞の如きも、亦之を推奨して居るに拘らず、淺田宗伯は其橋黄年譜に於て「世醫麻疹を治するに御柳を用ふ、此品享保年間舶來なり(中略)、且當年の麻疹之を用ひて特効あるを見ず」と斷言して居る。ハテ我ど見したることか。成る程本草の主治には「瘡を消し酒毒を解し、小便を利す」とある位で、必ずしも麻疹によいとは無位のだが、果して然らば桂山の言へるが如く、矢張り他藥と伍して特に其效を現はすものであるやうか(檉柳は御柳科に屬するギョリウで、赤檉、赤楊、河柳、西河柳、

雨師、垂絲柳、人柳、三眠柳、三春柳、觀音柳、長壽仙人柳などの稱がある) 然るに茲に麻疹豫防の妙藥だとして、片倉鶴陵の推奨せるものに紫根の一味がある。勿論私には經驗は無いが、鶴陵の青囊瑣探に據れば

「麻疹流行の際紫根二三錢を以て照常水煎し、之を服すれば則ち必ず稀少にして生命に害あらず、眞に絶世の妙方なり。安永丁酉の歲、天下麻疫大に行はる。甲州の一士人三間某が一家七八口、適々此藥を服し、四隣悉く麻疫を患へて此家獨り染まず。遂に之を親戚に傳ふるに、皆悉く驗ありと云ふ記して以て同輩に示す」

靈樞、九鍼十二原篇に「四關刺ス」と云ふことがあり、鍼灸要法指南に「四關刺スヲ以ツテ妙手トナス」と云ふことがある、註家の解釋によれば四關は肘膝關節の謂と云ふ彼の水府流鍼法であるが、西村流の家寶四肢鍼法と云ふのが、これが矢張り四肢を目標とした刺鍼によつて病を治せんとするものである。四肢に刺すことから、獅子流とまで言はれるに至つたと傳へられる。四肢を獅子に通じせしめたのであらう。

四關刺鍼の妙

柳谷素靈

よく頸の外側即ち胸鎖乳嚙筋の前後が強直性又は牽引様の苦痛感を感じて來ることがある。此時に丘墟又は外丘を使ふことである。之には多く頸、肩、背部に刺鍼施灸するのであるが、伸々の邊にやつた位ではどうにもならぬ患者のあるものである。橋頸、肩背に刺してよくなるやうなものであればそれでよいとして、これではどうにもうまく行かぬ時に一つ使つて見られるとよい。けれど初めて使つた方が早く苦痛がとれるやうである。之は膽經の是動病又は所生病であることは十四經發揮や靈樞經脈篇にもあるところである。丘墟穴又は外丘穴に刺して、膽經に響か傳導し肩井穴から側頸部に響くやうだと大抵的感病が輕快するものである。筆者は此の二穴を應用して側頸部の異常感を除く(七頁)

東亞醫學協會六月例會

六月二十二日(土)午後七時より
拓殖大學講堂

一、會場

一、會費無料
(但し會場費として當日參拾錢申受く)

一、講演
1、素問を如何に活用すべきか(二)
2、村井琴山先生とその治術

一、來聽歡迎

協會員には此廣告を以つて通知に代へますから、御誘合せの上多數御來會下さい。

矢數 道 明氏
大塚 敬 節氏

近頃皇醫學風景

燎原の火の如く
灸は復活して行く

◇銃後國民の健康増進に再認識された灸が大日本青年團で盛んに行はれてゐることは既報したが、今では同團の幹部以下女事務員に至るまで背中やお腹にお灸の痕だらけで數の多いほど幅が利き、参事の班日海軍大佐は全身四十九ヶ所筆頭。

突撃勢力を造る 漢方薬

◇北支建設の大事業に寧日なき森村軍醫中佐は「君、僕は漢方支持者だよ」と云ひ乍ら、力行丸と銘打つた皇漢薬を示して云ふことに「西洋の薬にはこんな良い薬はないよ、こりあねえ第一線の兵隊にもたせるんだ、連日何十里の行軍が續いたあとで、交戦の最後の決を肉弾突撃で取らなければならぬ時に、これを服用んだ。さうすると忽ち、氣力も體力も恢復して最後の突撃勢力が悠然として湧いて来る實に宜い薬だよ」と目を細くして撫で、見せる。

◇青年團で特設したお灸道場の森正寮にお線香ともくさき手にして汗だくの田中恭平先生は「これも國家へ御奉公です、サア何人でもいらつしやい……」

よ、ナニ純分がどうの、有效成分がどうの、臨牀試験の成績がどうのつてありや病人のやることだよ我々にや、效くこと、治ることが第一だよ」

大陸醫學 紹介號

六月號特輯

定價 壹圓
稅 六錢

東京 京橋 榎町
二ノ五 不二ビル

日本漢方醫學會

本協會寄附者芳名

一金參拾圓也
一金貳拾圓也

長崎 鮎川 澗
横濱 清水藤太郎

本誌購讀料納入者芳名
一金壹圓貳拾錢宛
東京 中村 忠吉氏
同 木村 ハナ氏
同 西山 一雄氏
同 兒玉 至弘氏
同 河田孫一郎氏

原區上神明町一三二 瀧野川區西
類家專之丞(藥劑師) 乙松氏
ケ原一四七五保坂方 相川 才氏
金萬 弘(無業) 荏原區小山町 渡邊 武氏
五七九内田方 同 池田 亨氏
富岡 菅根(藥劑師) 神田區駿河 長野 上原 禎子氏
臺二ノ九 同 大阪 辰井 文隆氏
奥田 悦子(藥劑師) 品川區大井 千葉 秋山 未門氏
坂下町山下アバト三五號 坂本 敏子(藥劑師) 品川區西大 倉田 省三(醫師) 世田谷區上馬
崎二ノ一四二日 崎二ノ一四二日 同 三ノ九四二

拓殖大學漢方醫學講座講師及聽講生一覽 (昭和十四年度)

河内 省一(醫師) 世田谷區北澤 町四ノ三四一青雲袋内
坂上 義二(鍼灸師) 豊島區雜司 谷町三ノ五一五片庭方
小林 文雄(無業) 世田谷區世田 谷二ノ一四四
篠田 一作(無業) 淀橋區戸塚三 丁目八七六清水方
福本榮次郎(鍼灸術業) 日本橋區 大傳馬町一丁目五ノ二
崔在 克(醫師) 杉並區 森本 彰(中學校教諭) 板橋區板 阿佐谷一ノ七七七
野田一之丞(齒科醫師) 板橋區板 橋町五ノ一〇二四
築山 新作(按摩術業) 板橋區板 橋町五ノ一〇二四
可世木辰夫(東大醫學部學生) 本 郷區本郷三丁目帝大佛教育青年會 館内
中村 策治(印刷業) 板橋區板橋 區練馬南町四ノ四〇八三
石橋 正一 日本橋區人形町一ノ 十二
承澤 稻彦(齒科醫師鍼灸師) 在

東京市小石川區若荷谷町三三 電話大塚(86) 一三〇番
振替口座東京六二〇二二番
電話牛込(34) 二七三番
振替口座東京六七三六〇番
電話牛込(34) 二七三番
振替口座東京六七三六〇番
電話牛込(34) 二七三番
振替口座東京六七三六〇番

巢鴨三ノ二七 清水 馨(藥劑師) 板橋區板橋 町二ノ五四〇
末岡 孝(鍼灸業) 四谷區新宿 一ノ六六
兒島 德郎(藥劑師) 豊島區池袋 一ノ六七九
三上 平太(醫師) 牛込區白銀町 三五
葉上 照澄(教師) 小石川區小日 向臺町二ノ四五小日向ハウス
若林巴三郎(醫師) 板橋區板橋町 五ノ九六六
倉田 省三(醫師) 世田谷區上馬 町三ノ九四二
東京市小石川區若荷谷町三三 電話大塚(86) 一三〇番
振替口座東京六二〇二二番
電話牛込(34) 二七三番
振替口座東京六七三六〇番
電話牛込(34) 二七三番
振替口座東京六七三六〇番

大同紀行

K · K 生

一 土間に燃えるストーブは脂汗が流れる程熱い。支那のストーブへ入る丈消炭を詰め込んだ奴だから、いつ消えやうとも思はない。従つていつ冷めようとも思はない。従つていつ熱い。時間は十一時過ぎて居る。色の白い大へん肥つた女中がそれでも飯をはこんでくれた。

「おそくなつてすまんね」

「へエもなれて居りますすけん」

女中は何處やら訛りで、洒然と答へる。

大同の土地まで来て小雨さへ降る。寒い道を、漸くたどりついて、おそい晩飯にもありついて見れば、たへん氣持悪く汗が出ようとも、後には寝るより外に術はなからう。歸るに、女中は寢床まで歩いて行つた。型ばかりの床の間に墨繪の軸がぶら下り、何やら花も置いてある。花に軽く手をふれ様と、身をうごかせばこれはしたり床板がきしんでギチ／＼といふ。

ふとんに白く敷布の肌ざはり、支那家屋に急製床板といへ身も心もぬるりする。電氣を消してうんと足を伸して、さて目をつむつて心を落付かせると怪しからんではないか。隣の室から、男女の語らう咄々の聲が機關銃の様に、この氣のよい僕を襲撃してくるどうも客とげいしやらしい。やがて酒盛りもすんだらしく、薄團などしくか、急製の床板がしきりにギシ、ギシギシといふ。やがて戸をあけて女が手洗に起つた。この間にと急いで深呼吸をして目をつむり物の五分もたないうち、ボタン

郷萬里のこの土地に淪落のあの女に何もかも捨て切つたあとに残る眞實一路の戀でもあるのだらうか。眞實にはそのあととは寢氣をさそふ子守歌の役目をしかして呉れなかつた。

二 バタバタ、ガラガリと戸のあく音がして「ア、ア、ア、もう電氣消したのオ、いやだあ、まつくらだよ」と半身私の室へ上りかけてゐる者があつた。どうも不思議である。一體何んのことかわからぬ。むしろす味味悪い。おづ／＼上半身を起して見ると驚くべし。電氣は消しても廊下の常夜灯に、ほのかに見えるその顔は、首に行く程白粉を濃く塗り、髪はベツチャリつぶれた様な日本髪に結つて、酒の一升も飲んだかと思はれる様な傑物が、片足上り端にふんがけてまさに小生の室へ侵入せんとしつゝあるではないか、氣の小さい小生は鳩尾のあたりが冷たくなつた様な感じがして、とみには物もいへないで儼然と見つめてゐると酔眼にも、室違いとわかつたらしい。

三 憲兵隊に行つて隊長に面會を願ふ、快く引見して呉れて、種々と大同についての概念を與へられたあとで話は雑談に移る。

「昔から大同美人と云ふますが、街を歩いて蘇州杭州の様な尤物を見うけませんか」

「それです、私もはじめは不思議に思つたが、此頃漸くわかりました。大同美人は顔が美しいとか姿が良しとか云ふのではないらしい。大同は昔から密淫の盛な所で一度大同に來た遊子はその方面の不由を絶對にせぬといふことから來たらしいですな」

こんな合間に見れば隣りの人々は、ピストルをせつせと磨き乍ら石佛寺のバスが襲はれては急にピストルが大切になつて來たと言合つて居る。

「怒られても、妾あ……今夜は歸れない」

これは最前の女の聲らしい。異

「大丈夫でせうか？」きいて見る

「多分、もう十五里も先の方へ追撃して居ませう」

午後一時半のバスに乗る。午前一回午後一回と二往復しか出さぬバスだ。往復一圓と五十錢墓の多い道石のころがつて居る。車の天井に頭をうちつけたこと幾度か五里約一時間半で雲岡につく。警備隊の兵舎がある。岩山禿山ながら入口の前には楡の三抱え程の大木が一本あつて僅かに此處が古い昔からの由緒あると語り顔である。石佛像その物にさへ棒をさしかけて板をよせ土を盛り土を塗つて甍を造り巢をいとんでゐる支那人だ

腹が立つ、いま／＼しい氣がする。が懐舊の情とかセンチメンタルをはまるでそ／＼らない、只空しい荒廢の趾に馬糞牛糞等の臭氣のみ高い。

○雲岡に五萬ありと云ふほどをうつつ奉りて石室ふりぬ

○花咲かず、岩岩むさずけだもの、糞ひるまゝに世はうつろひぬ

(一)

石佛寺の御佛の顔

美しきあり

笑みませり

子の御姿は

マヤ夫人その外になほ

女佛をえがけるなりと

石佛のおん顔

清淨に氣高きを見れば

この土に立ちてし見れば

人も吾も

戀すべき

心もわかず

たと思ふ

そのかみ千年

權力もてる帝王が

權力をつくし

人の力を集め

人の智を傾けて

刻み卷る御姿なりと

いや廣き大華の國の無邊なる王者の願地軸にきざむ不朽の業も總て皆本來空の理のまゝに岩もくづ折れ御姿もいまは英雄の業名雄の技とともにひたすらに流るゝ時の彼方に本來空と

教へたまふ。

モ

○醫學博士林郁彦氏を學長として青島に開設の豫定なりし東亞醫大は大陸に關心を持つ青年の志望者殺倒し、二百人の要員に三千人の志願者が集つた程であつたが、計畫に準備不充分の點ありとして興亞院より開校の許可下りず前途に一沫の暗影を残して行憐んでゐる。

○滿洲國公醫の試験を受ける準備教育を施す爲に計畫された興亞醫學館はこの程生徒の募集を開始した締切は六月十日仲々の盛況の由

○六月二日日獨醫學協定締結さる

○中山忠直氏の折業「地球を叩く」は松岡洋右氏を痛く感激せしめ松岡氏により英獨佛三ヶ國に翻譯されて世界に紹介せらる由。中山氏の舊著漢方醫學の新研究が且つて數ヶ國語に譯されて世界に紹介されたことあるは人のよく知る所である。

○阪大醫學部の片瀬博士はカルシウムを多量に食べると男を、マグネシウムを多量に食すると女を生む研究を完成せんとして居る由

○尙大戦後の獨逸にては性交時に軍曹のアルカリを使用して全部男子を生みし記録もある由である。

○北京西城北滿沿三十號にある國醫紙刊月刊社にては機關誌「國醫紙刊」を本協會宛寄贈し來り、本協會にては機關誌「東亞醫學」を送り兩國に於ける斯學の發展のため協力することとなつた。社長兼總務主任は楊醫亞氏編輯主任は陳述先氏である。

○國醫紙刊月刊社にては中國針灸學術研究の通信教授を開始し、六月月間に互り、毎月二回宛講義録を刊行する由、希望者は本協會による紹介者として北京西城北滿沿三十號國醫紙刊社附設中國針灸學術研究所宛申込みたい。

○尙ほ同社に於て精繪針灸經穴掛圖を頒布する由希望者は詳細を問合せられたし。

○本協會理事清水藤太郎氏は「日本藥報」十四年第十號に「代用生藥」に就て詳細なる資料を發表せられた。

○同清水藤太郎氏は五月十日附發刊のジャパン・アドバタイザ誌上に漢方醫學に就ての記事を發表し多大の反響を呼んだ。

編輯後記

目に青葉の初夏になりました。天地の間何んともすが／＼しい至りです。そこで編輯子は御免蒙つて緑を脱ぎ少々マンドンをさせて頂きます。皆さんも何卒御遠慮なくお膝をくづして、いや臥そべつたり、ひつくりかへつたりして御よみ下さい。

× といふ口の下から、これはまじめなお顔ですが貴重な體験とか、研究とか其他何んでも結構でありますから、御寄稿下さい。成可く各方面の方の御執筆をお願いして名實共に立派な東亞醫學にして参り度く存じます。

× 今年には梅雨模様意外に早く、昨日今日は降らないとはいへ、空に雲あり大氣に水分ありといふ具合です。何卒不順の候皆様御健康に御注意下さい。

× 新聞で見ますと子供のハシカが大分流行して居ります模様、石原先生の御寄稿はハシカに關するもので御参考になると存じます。

× 支那を視察して歩きました、お嫁さんの世話を大分たのまれて参りました。先方は博士あり學士あり多数です。大陸進出の意氣にもあるうら若い乙女を御存じの方はありませんか。(K)

○尙ほ同社に於て精繪針灸經穴掛圖を頒布する由希望者は詳細を問合せられたし。

○本協會理事清水藤太郎氏は「日本藥報」十四年第十號に「代用生藥」に就て詳細なる資料を發表せられた。

○同清水藤太郎氏は五月十日附發刊のジャパン・アドバタイザ誌上に漢方醫學に就ての記事を發表し多大の反響を呼んだ。